

まるで人質のような人生

ストックホルム症候群

これは、心理学の世界では有名な概念で、ひとことで言うと、自分に危害を加える者に対して、連帯感、親近感、愛情を感じるようになるという心理状態のことです。

かつてスウェーデンのストックホルムで、6日間にわたり銀行強盗に拘束されていた人質たちは、犯人が逮捕され救出されたとき、驚くことに、自分たちを長い間陥れていた犯人をかばい、逮捕した警察を非難するような言動をとりました。さらに信じられないことに、中には、その後も犯人を励まし続け、ついには犯人と結婚した被害者もいたそうです。この現象は、特定の人物とずっといることが強制された場合に、その人に対する好意が形成されることがありうることを示しているのですが、これは、私たち賃金労働者にもそのまま当てはまります。

以前、わが社においても、職場によっては、会社の方針をめぐり、露骨なパワハラが繰り返されていきましたが、怒りをあらわにするどころか、勤務時間外に自ら進んで、その上司の手伝いをする社員が多かった事には正直驚きました。「うっや 過労死」というのは、こうした被害者意識の希薄化がもたらす悲劇です。

困難なワークライフバランス

私たちは、小さいころ、将来の夢は何？と聞かれると、必ず「パイロットになりたい」というふうに好きな「職業」を答えます。一方で、世界一周、旅行したい。「もの知り博士になりたい。」といった私生活での自己実現を目指そうとする方はごくわずかです。そのため、まずは仕事を充実させなければ、プライベートも楽しくないし幸せになれない、という思考回路が出来ます。しかし、**仕事には、人間関係や労働環境等の外的要因が大きく絡んで来るため、無理に充実させようとした結果、滅私奉公を強いられ、いつまでも満たされないまま会社にしがみつく形になり、プライベートどころではなくなります。**反対に、私生活で何か目的があれば、その実現のため、会社とのビジネスライクな関係を維持することが可能になります。巷で奇妙なほど強調される仕事の「やりがい」ばかりに囚われて、純粹に楽しい事は何かという自己への問いかけを蔑ろにすることが、権威への「依存」を生み出す元凶です。

映画「ストックホルム・ケース」

ストックホルム症候群の語源になったノルマルム広場強盗事件を題材に描いた作品です。



「存在することと生きることは全く別のことだ」

by オスカー・ワイルド



若いカ

第 143 号

2021年 1月1日

発責 国労九州本部

博多区博多駅東3丁目9番3号

ニッコーハイツ1003号

JR 092-2075

NTT092-483-1515